

人工 UFO を目撃した米海軍兵士が 14 年間の沈黙を破る

グッチ

2025年1月16日記

グリアの講演を和訳していて、マイケル・ヘレラの名前が登場したので、検索してみました。

すると海軍兵士だった彼は2009年10月にインドネシアのジャングルの中で人工UFOに兵器が運び込まれるところを目撃した経験があると判明。

運び込んでいたUSAPsの兵士や空軍中佐に脅かされて14年間その経験を黙っていた。

グリアの講演では、2004年のスマトラ大地震の話のときも、スカラー砲を乗せたチャーター船に同乗していたヘレラという人物が登場していますが、マイケル・ヘレラは別人です。

マイケル・ヘレラは2004年にはまだ15歳の高校生であり、ジャマイカ行の船に乗ることは考えられません。

関連するスマトラ地震も2004年のM9.1の大地震より二回り小さいM7.6の地震です。

混乱するといけないのであらかじめ区別をお願いしておきます。

以下 Daily Mail Online が 2023 年 4 月にマイケル・ヘレラに行ったインタビュー記事を引用します(2023 年 6 月 9 日発行)。

マイケル・ヘレラ Michael Herrera;

当時 20 歳の海軍ライフル狙撃兵だった彼は 2009 年 9 月 30 日にスマトラ沖で起こった M7.6 の地震による被災者の人道支援の命を受けてインドネシアに行った。

10 月 8 日ごろに同僚 5 人とともにパダン市の北東にヘリで飛んだあと、ジャングルの中に入り物資の投下場所を作っているとき、八角形の円盤が空中に浮遊しながら時計回りに色を変えつつ回転しているのを目撃した。

色は明るいマットなグレイから非常に暗いマットな黒へと変化していた。

この円盤は周囲から際立っており、大きくてフットボール場ほどもあった。

彼らは無線機を持たされていなかったので報告できなかった。

そこで隊列を作って丘を下り調査に向かった。

彼はスナップ写真を撮り、パナソニックのビデオカメラで撮影しつつ、同僚とともに円盤から 150 フィート以内の距離に近づいた。

円盤はギターアンプのような音を発しており、頂上は黒いピラミッド型になっていた。

船体には目盛りのようなものがあり、つなぎ目があって彼はこの円盤は人間が造ったものだろうと推測した。

エッジには光を反射しないベントブラックのパネルが張ってあった。

[再現図](#)

そのとき突然 8 人の兵士が現れた。

カモフラージュされた黒い防弾チョッキを着、米軍のエリート隊員用のナイトビジョン付きの M4 ライフル銃をもっていた。

[再現図](#)

兵士たちが銃の安全装置を外した音がした。そしてその銃を彼らに向けて言った。

「お前たちは何者だ？」「ここで何をしてる？！」

2 人の兵士が米国なまりの英語で叫んだ。

「お前たちはここに許可なく入ってきた。殺すこともできる」。

兵士らはヘレラたち海軍のライフル銃から弾薬を抜いて捨て、彼らのミリタリーID カードをスキャンした。

ヘレラは他の兵士たちが、改造フォード F350トラックから大きな兵器収納ケースやコ
ンテナをホバリングする円盤真下の台の上に運んでいるのが見えた。

最後のトラック2台が積み荷おろしを終えて去ったあと、台が 10 フィートほどせり上が
り、同時に円盤も降下してきて両者が合体した。

円盤の端にはライトがいくつか付いていて、青、赤、黄、緑と変化していた。

円盤は離陸し、近くの木々をかすめたあと、突然左方向の海に向かい時速 4000 マイ
ルくらいのスピードですっ飛んでいった。

我々はこの出来事が信じられなかった。

円盤は初速ゼロから、まったく無音で木々も揺らさずに飛び去った。

ヘリが下に向けて巻き起こす風のようなものも一切なかった。

周囲の木々にはココナッツがなっていたが、それも微動だにしなかったとヘレラは言
う。

8 人の所属不明の兵士らはヘレラたちに弾薬を抜いた銃を返却し、彼らを連行して丘
を登りながら、お前たちを殺すこともできるとまた言った。

丘の上に到着すると、ここから失せろ！ 振り返らずに行くんだと命じられた。

ヘレラたちはヘリポートまで走って戻ったが、早く戻ってきてしまったことを海軍将校に叱責された。

将校はジャングルの中で出くわした出来事について他言しないようにしろとも言った。

「とても怖かった」と元海軍兵士のヘレラは言う。

「殺されることもあり得た。この恐怖をどう説明したらいいのか？」と。

海軍揚陸艦に戻ったヘレラたち 6 人は少将にブリーフィングを受けた。

少将はヘレラたちの主張を認めなかった。そんなところに位の高い将校がいるのは変だと。

そして円盤や所属不明の部隊については二度と語ってはならないと命じた。

数日後船はフィリピンのスービック湾に停泊した。

ヘレラが夕方同僚たちと飲んでから船に戻ると、自分のカメラのカードとバッテリーが施錠したロッカーから消え失せていた。

5 人の同僚のケータイもなくなっていた。

船は 2009 年 12 月初旬に沖縄のキャンプ・ハンセン基地に戻った。

ヘレラが報告するように言われて本部に行くと、そこには空軍中佐がいた。

彼は制服姿だったが、制服には名前のタグがついてなかった。

彼は話し始めた：

「君はあそこで起こったことを誰にも話してはいけない。君の上官の指揮命令系統にも、提督でさえもだめだ」と言われたという。

「話したら監獄に入るか、死ぬかのどちらかになる」と。

「彼は私に黙るように言って、一枚の書類を差し出した。

それは NDA(秘密保持契約書)だった。私が思い出せるのは、そこに TS/SCI と記してあったことだけだ。

つまり Top Secret/Sensitive Compartmented Information(極秘・機密秘守情報)だ。

インドネシアの件も極秘事項に入っていた」。

海軍ライフル兵のヘレラはその書類にサインすると、とっとと出ていけと言われたという。

「私は自分の兵舎に駆け戻り、それ以降この件についてはいっさい話さなかった。

このことを14年間も黙っていたのはそれなりに大したことだと思う。

でもその間私がこのことを考えない日は一日たりとなかった。」

彼は 2011 年 10 月に海軍を除隊した。

彼の身分証明書には 4 年間の国家防衛勤務、対テロ戦争勤務、人道支援勤務、海軍勤務、海上作戦参加、ライフル狙撃手バッジなどの勲章が記載してある。

ヘレラはその後企業家として数百万ドルの資産を作り、今では Valkyrie Eye という民間セキュリティ会社を経営している。

12 月(2022 年)に UFO 内部通報者の保護が強化されたことが、この元海軍兵が自分の経験を公開する後押しをした。

引用終わり

なお、人工UFOも反重力を使って飛ぶので、無音で急発進できます。